

現代日本詩人叢書 第29集 雲 その三

1991年9月31日 第1刷

著 者 八木 昭二郎 (やぎ・しょうじろう)

発 行 檸 檬 社

発 売 蠶近代文藝社

〒112 東京都文京区目白台2-13-2

(03)3942-0869 郵便振替 東京7-68875

定 価 1,200円 (本体 1,165円)

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

製 本 小泉製本所

©Shojiro Yagi 1991 Printed in Japan

ISBN 4-7733-0788-9 C0095 P1200E

現代日本詩人叢書

八木昭二郎詩集 雲 その三

詩集

雲

その三

目次

台風一過 8

女のルンペン 9

卵 13

間伐 17

扇風機 19

朝顔 20

夢 21

カメラ 25

包丁 28

せんたく(一) 29

せんたく(二) 31

胡瓜 34

なすの皮	37
シャボン玉	38
お腹	40
お母さんの胸には	42
湯上がり女の……	44
じゃんけん	46
因数分解	48
めがね	50
首吊り	52
お尻(一)	53
お尻(二)	55
赤ん坊	62

吉野山 65

吉野にて

伊那・高遠にて 86

伊那にて／高遠にて

河内平野 100

奥羽本線 144

よこはまにて 169

年 譜

台風一過

見上げたら

ちちも ははもいた

女のルンペン

女のルンペンが歩いてた
蒲団を背負って歩いてた
家を搜してた

とんぼが飛んでいる

白と黄色のまじったとんぼが飛んでいる

女のルンペンにも

そのような日があったと思う

女のルンペンが子供を背負つてゐる

父のいない子を――

夢のあとを背負つてゐる

垢のつもつた乳房から出てくるのは

子守唄のほかに

お母さんのふるさとのこと

お母さんのお母さんのこと

とおりすがりに白い菊をあげたら
菊よりも白い齒をみせてほほえんだ
垢も又化粧になるのですね

黒くなつた乳房から出てくるのは
お母さんの愚痴ではなくて
きいたこともない子守唄です

日差しの中でうずくまる女のルンペン

し
ず
か
で
す

ほ
く
よ
り
も
し
ず
か
で
し
た

卵

冷蔵庫から出した白い卵を
掌にのせてあたためたら
はずかしそうに汗をかいた

病床のお膳に

孵らない卵がのっている
その重さをはかっている

卵には　へそがない

どのようにして大きくなったのかなあ

まるい方が　あたまの部分で

とがった方が　足の部分

どっちから　割ればいいのか？

白い卵は化粧した女の顔より白い

お母さん鳥のお腹の中には

お白粉がつまっている

このにわとり きもちがわるい

めんどりどうしで いても

つぎからつぎへ 卵をうむ

人はもつと きもちがわるい

その卵をたべてしまつたら

にわとりまで たべた

にわとり 泣かへん